



特色ある研究実践－浜中町立浜中小学校の実践

浜中町立浜中小学校

はじめに

本校は、小規模・少人数学級であり、休み時間や縦割り班活動などで、学校のみんがが友達という意識をもてる良さがあります。一方で人間関係が固定化されていることから、自分の思いや考えを改めて言葉で説明する必要性を感じていない場面が多く、発表も一方通行になりがちで、相手の考えから学び、新しい考えを生み出すことを苦手としている児童が多いです。

本研究では、数学的活動を意識的に取り入れ、問題解決学習に取り組む過程で、自分の考えや思いを発言したり、相手の発表から新たな発見を見つけたりしながら新学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指しています。

研究主題

「主体的に学び、考えを伝え合う子どもの育成」

～数学的活動を取り入れた、自分の考えを表現する指導の工夫～

研究内容

問題解決学習を通して



- (1) 学習規律の統一
 - ・ ノート指導の統一
 - ・ 話し方・聞き方のきまりの作成（学級掲示）
- (2) 見通しや振り返りを位置づけた単元・授業の構想
 - ・ 既習内容と本時の問題の比較
 - ・ 学習内容の定着を確認する練習問題の設定
- (3) 既習事項を活用しながら問題解決ができる課題・発問の工夫
 - ・ 間接指導でも子ども達が迷わない、学習内容が見通せる課題
- (4) 集団解決による話し合い活動の場の設定
 - ・ 何を交流するのか目的を明確にする。



成果と課題

- ・ 「問題」を提示してから「課題」を設定することで、本時の学習内容が明確になり、子どもたちが、課題解決のための見通しをもちやすくなった。このことは、複式授業において、個人思考の場面を充実した間接指導とするためにも重要であった。
- ・ 集団解決の場面を位置づけることで、自分の考えをわかりやすく説明したり、友達の考えについて再考したりすることができるようになった。
- ・ 個人思考の場面で、既習内容を確実に活用できるようにするためにも、より良く定着させるための方策や場の設定の工夫が必要である。

学教研弟子屈大会 《成果と課題》

10月2日に行われた学教研弟子屈大会は、皆様のご協力のもと、来賓・関係者も含め、300名近くの方々に参加していただき、盛会裏に終えることができました。弟子屈町教育研究所並びに弟子屈町各校の皆様におかれましては、精力的に準備に取り組んでいただき、ありがとうございました。

各部会では、短い時間ではありましたが、町村の枠を超え、活発な研究協議がなされたことと拝察します。この学教研で学んだことをこれからの教育活動にいかしていただけたら主催者側といたしましても幸いです。

下に次年度の標茶大会の運営につなげる本大会の《成果と課題》について参加者からの声とともにいくつか紹介します。

成果



- ・教科ごとの部会には限界を感じていたため、弟子屈町の部会構成は参考になった。
 - 学校数の減少、児童生徒数の減少、教職員の減少等の現代の課題に応じた学教研の在り方への一つの提案になったのではないのでしょうか。
- ・討議の柱に沿った授業実践が行われていて、討議しやすかった。(特支)
 - 全ての部会ではないかもしれませんが、参加者のニーズにあった授業研、事後研になったと思われます。
- ・学教研は町村の特色が見えてとてもいい機会だと感じる。
 - 毎年行われる学教研で、他の町村の取り組みを知ることができ、日々の教育活動につながるような運営をしていきたいと思えます。

課題

- ・討議、協議の時間が十分ではなかった。
 - 弟子屈大会では部会数が限られており、必然的に一つの部会への参加者数が増えました。参加者の数に応じて公開する授業、協議の形式を考える必要があるのかもしれません。また、討議協議の時間を増やすにはコンパクトな開会式にしていくことも一つの手段です。さらに、会場の移動が生じることになると、協議の時間を十分にとることは難しくなります。開催町村研と釧研とで打ち合わせを密にして考えていく必要があります。
- ・開催町村と次年度開催町村以外の先生の参加がもっと増えるといい。
 - 積極的な呼びかけ、魅力的な告知を釧研でもしていこうと思えます。

この他にもたくさんのご意見をいただいております。学教研がさらに意義深いものになるように、所員一同鋭意努力してまいります。

次年度開催の標茶町の先生方におかれましては、実り多い標茶大会を迎えられるよう、ご協力のほど、何卒よろしく願いいたします。

標茶町教育研究所の研究

1. 研究主題「心身ともにすこやかな子どもを育て、保護者の期待に応える標茶の教育の創造」

2. 標茶町教育研究所の主な研究活動

(1) 研究大会～5月研究大会, 7月研究大会, 9月研究大会, 2月研究大会

5月大会では全体会及び部会, 7月・9月・2月の大会では部会ごとの活動が行われています。各部会では, 授業者公開や指導案検討, 実践交流, 実技講習会など活発な活動が行われています。

(2) 特別委員会～小学校社会科の郷土読本「わたしたちのしべちゃ」の改訂に向けて郷土読本編集委員会が活動しています。

(3) 部会構成～今年度は12部会での活動となりました。標茶町の目指す子どもを基にしてテーマを決め, その実現のために活動を行っています。以下は今年度の活動計画です。

国語	テーマ「ねばり強く」「正しく考える」	部長	荻原 愛 (標茶中)
	授業実践交流や授業研究会を通して, 「ねばり強く」「正しく考える」ための領域・手段について1年間かけて研究していく。		
社会	テーマ「子どもが主体的に考え, 意見を発信する社会科の授業の工夫」	部長	大南 優 (標茶小)
	「子どもが主体的に考えるための知識・技能の確実な習得」「子どもが意欲を持って, 解決に向けて取り組める課題の設定」「子どもが自分の考えを述べ, それを基に練り合いが生まれる場面の工夫」について授業研究を行う。		
算数・数学	テーマ「小中学校のつながりを考えた授業」	部長	谷口 友彰 (虹別中)
	「ねばり強く」「正しく考える」「工夫して実行する」ために, 公開授業研や実践交流, 教材研究(正負の数, 確率)を行っていく。		
理科	テーマ「ねばり強く」「正しく考える」	部長	河津 雅幸 (標茶中)
	「科学的な思考を促す授業づくり」「科学的な思考力を高める教材の活用」「思考を促すことができる実験方法の研究」を授業研究やフィールドワーク, 実践交流を通じて研究していく。		
音楽	テーマ「一人一人が生き生きと音楽表現する子どもを育てる授業を目指して」	部長	佐藤 恵美 (中茶安別中)
	表現領域において「工夫して実行する」ために, 思いや意図を持たせる授業のあり方を授業研究や実践交流, 学習会を通して研究していく。		
図工・美術	テーマ「子ども達の豊かな感性を育み, 表現力を育てる図工・美術品教育の在り方」	部長	及川 夏美 (標茶小)
	「感じたこと, 想像したこと, 見たこと, 伝え合いたいことを工夫して表現する力」を育むため, 授業研究や授業参観, 実技講習を通して研究していく。		
保健・体育	テーマ「楽しく分かる授業づくり」	部長	是枝 耕平 (沼幌小)
	「全員が意欲を持って取り組める授業」の実現のため, 授業研究や実技研修(クリケット, カバティ, キンボール, 長靴アイスホッケー)を通して研究していく。		
英語	テーマ「コミュニケーション能力の向上を目指した英語の授業」	部長	神山 友莉奈 (標茶中)
	「工夫して実行する」＝「自分の言葉で伝え合う」ために「聞く・話す」の領域, 表現の能力に重点を置き, 授業実践交流や授業研を行っていく。		
道徳	テーマ「児童生徒が主体的に考える授業」	部長	岩淵 哲 (標茶中)
	アクティブラーニングの視点から, 多面的・多角的な指導過程の工夫や発問(追発問), 問い返しについて授業研究や理論研究を行っていく。		
養護	テーマ「学校保健を充実させるために」	部長	伊藤 巴 (中茶安別小)
	日常執務や保健指導, 健康診断の現状と改善点について, 交流を通して研究を深める。		
事務	テーマ「学校事務の果たす役割」	部長	佐々木 拓 (塘路小)
	学校事務の効率的処理を求めて, 年間業務や日常業務に関わる実務研修を行っていく。		
特別支援	テーマ「主体的に考え, 自分なりの考えをもって判断し, 行動できる児童・生徒の育成」	部長	瀧澤 砂織 (標茶小)
	「喜んで働く子ども」「自らねばり強くやり抜く子ども」を育てるため, 見通しを持たせる工夫や教材・活動内容の工夫, 「できる環境」の工夫を実践交流を通して研究する。		

3. 次年度釧路管内学校教育研究大会標茶大会の予定 ・開催期日:平成31年10月3日(木)

